

# あらゆる主体との連携に向けた具体的手法の検討について

資料 4

教育大綱フォローアップにおける基本的な考え方

「**教育大綱の理念を実現するためには、  
あらゆる主体による連携・協働が必要**」

教育大綱ビジョン

- ・予測困難な時代を生き抜く力を身に付ける
- ・誰もが取り残されず幸せ・生きがいを実感
- ・社会全体が豊かさを感じられるものとなる

※「はじめに」より抜粋

立脚  
視点

行政だけでは  
実現できない

民間や個人による  
社会課題解決の機運と実践

マルチステークホルダー  
による取り組み実績

構成  
要素

【役割の変化】  
富の分配から  
痛みの分配へ

【課題の変化】  
多様化、複雑化  
、困難化

課題解決の  
当事者マインド  
が顕在化

組織団体や  
有志市民による  
実践事例

(例)  
グローバル  
レベル「SDGs」

(例)  
ローカルレベル  
「ひめじ大会議」

具体的  
背景

＜社会情勢の変化＞  
高度経済成長から低成長・成熟社会へ、  
人口減少・少子高齢化、グローバル化、  
価値観の多様化、社会の分断（排外）、  
SNSを通じた多様な声の可視化

パーパス経営、  
フェアトレード、  
エシカル消費、  
クラウドファン  
ディングなど

「システム思考でまち  
づくり課題解決セミ  
ナー」（商工会議所・  
県立大）、「ひめじ共  
創パーク」（青年会議  
所）、「ひめじ教育万  
博」（市民有志）など  
多数

精緻な議論と明快  
な打ち出し  
政府、企業、個人  
などあらゆるレベ  
ルで取り組み

ブランドメッセー  
ジ・ロゴを共創  
成果の一方で、参  
加できる市民には  
限りがある

考察

①行政として果たすべき施策の実行は大前提として、  
②立場を超えた連携・協働が不可欠

③先行事例の教訓も踏まえ、  
包括的・包摂的なプロセスが重要

対応  
方針

①→市政PDCAへの反映

=見える化・施策立案・検証サイクル実行

②③→「ひめじ大会議」の成果と教訓を踏まえた対応

=アナログ+デジタル技術の併用

# アナログとデジタル技術を併用した新たな仕組み（試案）

目的：教育に関するあらゆる主体（市・民間団体・市民）の連携・具体的アクションを促進

手段：①デジタルで裾野を広げ（広報・広聴DX）、②リアルで深める（市民参加型プログラム）

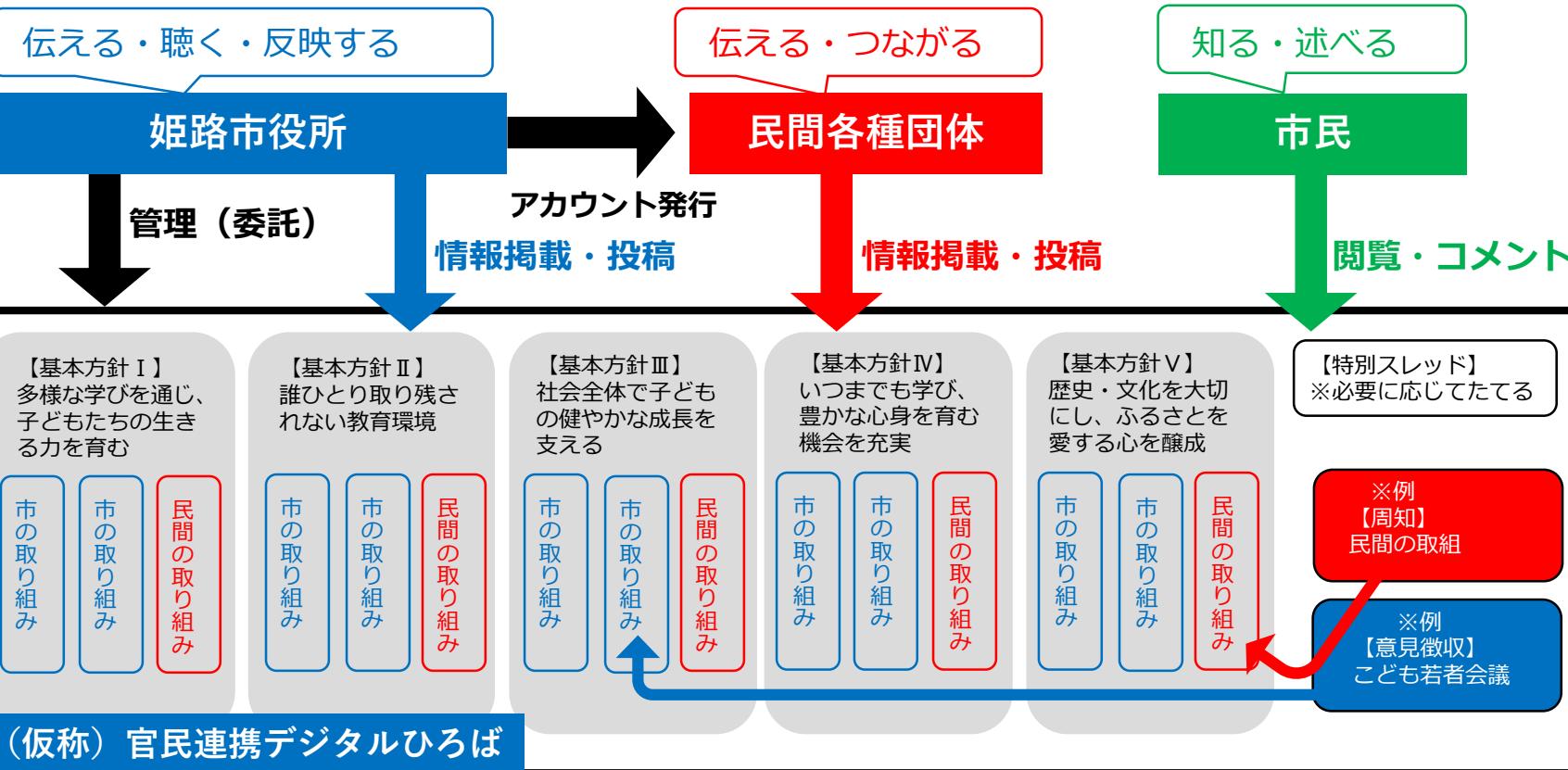
従来の市民参画・広聴

市民参加型の会議  
パブリックコメント

## ■課題

- ・施策や情報が点在し、  
**全体像が見えない**
- ・対話の質的・量的に  
**市民の参加に限界がある**

DX



## ②リアル会議の意義・役割（継続）

- ・対面のコミュニケーションで  
**信頼関係の構築・熱量の醸成**
- ・対話を通じた**共通認識の言語化**  
(ex:行政への要望集めが目的ではない旨)

## ②市民参加型プログラム



※例  
こども若者会議



※官民それぞれのニーズに応じて自主的に開催

※例  
民間の取組



【年度後半】振り返りと展望  
事業報告と対話 (成果と課題)

# 本事業を通じた行動変容イメージ

## Before (現状)



内容には自信あり！  
もっと多くの市民に届けたい！

素晴らしい取組だ！  
多くの人に薦めたい  
私が発信しても多くの人  
には伝わらない

既存の参加者



関心ある取組だけど、  
知らなくて参加できず  
情報が多くて、  
なかなか見つけられない

関心層



子どもにどんな体験  
させたら良いかなあ…  
どんな教育が大事なの？  
よく分からない

潜在関心層

(仮称) 官民連携デジタルひろば  
を通じた改善

応援の可視化 (いいね/コメント)

マッチングの改善

潜在ニーズの掘り起こし

## After (未来像)



多くの市民に届き、  
活動意欲がさらに向上

関心あるコンテンツを  
発見！ 参加してみよう

これ良いかも！  
参加してみようか！

コメントや「いいね」で  
取組を応援できる！

既存の参加者

関心層

潜在関心層

## 【展望】

- ・大綱の理念を具現化する取組を見える化することで認知・参加を促進
- ・1つ1つの取り組み「点」をつなぎ、官民の多様な取り組みを面として展開  
→姫路市の充実した教育環境を市民が認知